

目的 本報では前報に引き続き、職業、配偶者の有無および家族形態、生活態度などによる勤労観の違いを明らかにしようとするものである。

方法 職業別では著者らが行った昭和54年・55年調査による中高年男女と老年男女の計2710名の資料によった。家族形態、配偶者の有無による違いは、同じく昭和54年・56年調査による老年層514名の資料によった。また、生活態度に関しては、同じく昭和56年調査による老年層536名の資料を用いて分析を行った。

結果 職業別では、有職者は無職者よりもより仕事・知識志向型であり、仕事を持つ意味については有職者の方が生活維持のためであるとし、現実的に割り切っており、無職者の方はくとして当然のつとめであるとして、使命感の傾向が強くみられた。

家族形態別では、核家族者の方が拡大家族者よりも仕事・知識志向が強く、拡大家族者は家庭志向が強かった。また、配偶者の有無別では、有配偶者は仕事・知識志向よりも家庭志向型であり、社会の人びとの余暇活動に対してはきびしく批判している傾向がみられた。生活態度別では、能動的グループの方が受動的グループよりも仕事・知識志向型であり、仕事に対する欲求も強く、使命感の強い、仕事の選択に対しては収入よりも能力重視的であり、余暇活用に対しても意欲的であった。

以上を総括すれば、有職者、核家族者、有配偶者、能動的な生活態度者の方が勤労に対する考え方は積極的で意欲的な傾向がみられた。中でも、生活態度別において、その違いは顕著にあらわれていた。